自己点検・自己評価　　学校名：　東群馬看護専門学校（自校評価）　　学校関係者評価：

評価項目 カテゴリー	下位項目	評価内容	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	資料名	令和2年(2020)度 自己点検・自己評価の概要と今後の課題	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	令和2年(2020)度 第三者評価の概要
Ⅰ教育理念・教育目的		1-1 教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。	○			教育計画	教育理念、教育目的については、設置主体の開校時の考え方など教育目的に盛り込まれ明文化されている。また、開校以降は、新カリキュラム改正に伴い必要時確認している。 今回、2022年のカリキュラム改正に向け、全専任教員で少しずつ進めている。そのような中、地域の特性や現高校生の実態を把握し、再度教育理念、教育目的の見直しをしている。加えて、共有・整合性を図っている段階である。出された課題に対し一貫性のあるカリキュラム作成に繋げていく。				
		1-2 教育理念・教育目的は法との整合性がある。	○			教育計画					
		2-1 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。		○ ◯ ○		シラバス	学生の学習指針に成るようにシラバスの中に具体的に示されていない。今後はシラバスの中で学生が理解できるように、一貫性且つ具体化し示していく。また、学生が常に目的意識を持ち主体的に行動できるよう、専任教員自身が常にこれを意識し、学生に浸透できるように努めていく。 **今年度も、シラバスに示されていない。これに留まらず、全教員がシラバス説明時に 、期待される卒業生像 に繋げた説明の実践が不十分であるといえる。 今後の課題は、新カリキュラムに伴い、受講する科目は教育理念から(教育目的、教育目標、)卒業生の特性に繋がり、看護師になるうえで、必要性があるからこそ学ばなければならない科目であることを説明する。さらに、学生の学習の方針に繋がるように具体化して示していくことが明確化された。今年度の課題は学生の学習の方針に繋がるように具体化して示していくことであるが手掛けられていない。次年度の課題とし取り組むこととする。**				
		2-2 教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。		○ ◯ ○							
		3-1 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。	○			教育計画					
		3-2 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるのかを述べている。	○			シラバス	教育理念・目的の認知については名札の裏に期待される卒業生像特性を明記する。学校職員も同様に名札の裏に当校の教育理念、期待される卒業生像の特性を明記し定着化に努める。				
		3-3 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるのかを述べている。	○	○ ◯		シラバス・便覧・実習要項	教育環境を整えて実践している事実や、それを具体的にどう関わってNSの質の保障に支援しているかが示されていない。　今後は環境整備している事実など多具体的に明示していく。 **学生が学習しやすいように個室の改装、図書室の開館時間の工夫等、学生の声を優い上げ、教育環境に活かし整えている。今年度は昨年度の課題となっていた教育環境の整備に手掛けている。今後は学生の活用後の声に耳を傾け学生の困り感に即し改善していく。**				
		4-1 教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。	○			便覧	折に触れ、看護学の考え方や位置づけなどは視覚教材と便覧・シラバスなどを活用し、口頭での説明を行っている。しかし、今後は学生に明示していく。				
		4-2 看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。	○			シラバス・便覧	内部教員のみではあるが授業評価・実習評価を実施しているためデータはある。したがって、その結果を踏まえて各教員振り返りを実施し、自己の課題を見出し、より良い授業づくりに繋げている。				
		5-1 教育理念・教育目的は、養生する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	○			シラバス・便覧	卒業時の到達目標は明文化されている。しかし、昨年まではこれに対する評価は実施していなかった。今回カリキュラム改正に伴って、卒業時の期待される卒業生像に対する評価を実施した。その結果、たくさんの課題が見えてきた。また、この課題を克服するためには、各学年毎の目標に対する自己評価の実施は不可欠であり、さらに、各学生の目的、目標の意識化に繋げられる。加えて、これは主体的な行動にも繋げられると考えられるため、これを今後の課題とし実施する。				
		5-2 卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	○			シラバス・便覧					

自己点検・自己評価　　学校名：東群馬看護専門学校（自校評価）　　学校関係者評価：

評価項目 カテゴリー	下位項目	評価内容	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	資料名	令和2年(2020)度 自己点検・自己評価の概要と今後の課題	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	令和2年(2020)度 第三者評価の概要
Ⅱ教育目標		1　教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。		○		教育計画	学生の学習指針に成るようにシラバスなどの中に具体的に示されていない。例えば、この授業は期待される卒業生像の〇番を到達するために必要な科目や単元がこの授業であるなどと、一貫しておらず、学生が理解を示せるようになっていない。 今後は卒業時の期待される卒業生像からの科目連関をシラバスの中で学生が理解できるように、一貫性且つ具体化し明示していく。 **新カリキュラム開始時期に合わせ、学生自身が卒業生の特性に繋げられる具体化されたシラバスを作成する。前年度より継続中であるため引き続き課題とする。**				
		2-1　教育目標は、設定した教育内容を網羅している。		○		教育計画					
		2-2　教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。		○		教育計画					
		3-1　教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。		○		教育計画					
		3-2　教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。		○		教育計画					
		4　看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定してる。		○		教育計画	看護実践力の習得と関連病院の指導に関わるスタッフに向け、学生の現状把握、継続教育の継承を目的に、関連病院の指導者、主任レベルのスタッフに来校して頂き、基礎実習前の技術練習の参加を整備した。しかし、現在では関連病院の繁忙に伴い実施されておらず。教科外活動時間を活用し、各教員が基礎実習、領域別実習前、中で習得度の確認指導を行っている現状である。また、各単元毎、各授業科目、各領域に順次、技術は到達させている。当校では3年時に行われる、総合実習や臨床看護総合の授業の中でシミュレーションによる事例演習を最終評価としている。今後は卒業前の看護実践力の自己評価の実施をしていく。 また、再度関連病院のスタッフへの参加を依頼し、効果的な実践力の習得に繋げていくと共に卒業前に看護実践力の自己評価の実施と教育目標と継続目標との関連性について明文化していく。**今後の課題は新カリキュラム開始時期に合わせ、卒業生自身が看護実践者・生涯学習者として継続的に成長していけるような教育目標を設定していく。** **新カリキュラム開始時期に合わせ、学生自身が卒業生自身が看護実践者・生涯学習者として継続的に成長していけるような教育目標を設定していく。より具体化されたシラバスを作成する。前年度より継続中であるため引き続き次年度の課題とする。**				
		5　卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。		○		教育計画					

自己点検・自己評価および第三者評価表 学校名：平成学園　東群馬看護専門学校　　学校関係者評価：

評価項目 カテゴリー	下位項目	評価内容	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	資料名	令和2年(2020)度 自己点検・自己評価の概要と今後の課題	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	令和2年(2020)度 第三者評価の概要
	1 教育課程経営者の活動	1-1 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	○	○		規定集の内規の一部 教育課程編成委員会 ＜目的＞＜機能＞＜役割＞＜構成メンバー＞について **＜東群馬看護専門学校学校評価規程＞**	規定集の内規として、この委員会を発足したこと、この委員会の発足目的を明記した。　＜本会は実践的な職業教育を行うため、自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた　目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について評価・公表することにより、学校としての組織的・継続的に改善をはかるために発足した。＞ 規定集の内規として、教育課程編成委員会を発足した目的、機能、役割、構成メンバーを明文化した。その他は、継続し検討中である。 **昨年度、教育課程編成委員会について明文化し、今年度は学校評価規程を作成し、その規程に基づいて学校関係者評価を開催し評価を受けることができた。この結果を活かし教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っていく。また、新カリキュラムに伴い、専任教員はカリキュラム再編成に取り組んでいる。このことから現状では教育理念から教育目的・教育目標・期待される卒業生像の関連性を理解してきている。今後の課題は、第3者評価を受けることができるよう全職員一丸となり努めていく。**				
		1-2 教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	○	○							
	2 教育課程編成の考え方とその具体的な構成	1-1 看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	○								
		1-2 学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	○								
		1-3 学生の成長について明確な考え方と根拠をもって編成している。	○								
	3 科目，単元構成	1-1 明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	○			学生便覧、履修要項参照					
		1-2 明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	○								
		1-3 科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	○								
		2-1 構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である。	○								
		2-2 構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。	○								
	4 教育計画	1-1 単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。	○			教育計画・履修要項・学生便覧参照					
		1-2 単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものになっている。	○								
		2 単位履修の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	○								
		1-1 単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	○			履修要項・学生便覧参照 授業・実習評価資料					
		1-2 単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	○								
		2									

Ⅲ教育課程経営	5 教育課程評価の体系		他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	○								
		3-1	教育課程を評価する体系を整えている。	○	○		資料無し **＜東群馬看護専門学校学校評価＞**	昨年同様経営管理過程の第3者評価は行っていない。さらにデータの分析方法や評価結果の活用方法の**倫理規定**の明文化をしていく。 昨年からの倫理規定の明文化については現在も継続して検討中である。 また、経営管理課程の第3者評価は受けていない。しかし、教育課程の評価は近隣の看護学校へ依頼し実施している。 **今年度は東群馬看護専門学校学校評価規程を作成し、これに基づいて、HP上での自己評価の公表や学校関係者評価を開催している。また、今年度も県内の学校間評価は継続し評価を受ける。　今年度、評価結果の活用に関する倫理規定についての明文化はできていない。今後検討を重ね整備していく。**				
		3-2	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。		○ ○ ○							
	6 教員の教育・研究活動の充実	1-1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	○			年度別授業担当一覧表					
		1-2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	○								
		2-1	教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	○	○		研修書類	教員の研修の年間計画を一覧表にあげ「研修の目的とその理由」については実践可能となった。さらに各教員伝達講習などの機会を設け相互研鑽の一助とし教育の質の維持・向上に繋げられるよう努めている。具体的には研修参加後は速やかに報告書をまとめ、教員会議等の議題の一つに組み入れ伝達講習実施を研修参加者の役割の1つとし、システム化している。書類の保管・管理は係りの担当者がルールに則り保管している。 作年の課題取り組みをはかったことで、情報が可視化され、情報共有できている。また、このことが可能に成り常時、研修書類を活かすことができ、自己研鑽にも繋げられている。今後はPCでの共有フォルダーを作成することで、業務に費やす時間やコストの削減をはかり、教員の授業準備時間に充てられるよう取り組む。　**今年度は昨年度の課題を活かし、PC上での共有フォルダーを作成し、教員の雑務・コスト削減に努めることが出来た。また、これと同時に、就業時間についての最大超過時間を設定することで仕事の効率化に繋げることが出来た。また、研修参加後の速やかな報告書作成と伝達をシステム化し、情報共有が可能となり、教員の自己成長・　相互成長に繋がっている。**				
		2-2	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	○	○		書類無し					
	7 学生の看護実践体験の保障	1-1	臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。	○	○		実習要項、各領域の手引き 実習指導者会議ファイル	昨年同様な自己点検・自己評価の概要である。今年度は「指導者の役割について」文献を用い検討中。次年度の実習要項には明記していく。 昨年の「指導者の役割について」の明文化については、継続して検討段階である。しかし、臨地実習施設の選択や学生の配置についての考え方、および、施設への連携、調整などのように経て指導体制を整えているかなどは実習調整者が中心となり、関連病院との臨地実習指導者会議や各実習前の打ち合わせ、状況によっては臨時にて協働体制をとり整備している。 **今年度は「指導者の役割について」や「臨地実習における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている」この2点においては未だ検討段階であり、今後の課題でもある。しかし、臨地実習施設の支援体制や実習指導者ー教員間の協働体制の整備については、関連病院については、実習指導者会や事前の打ち合わせ、或いは臨地にてその都度共有し問題解決に繋げている。また、これに加え、関連病院以外の施設に対しては、実習終了時には各領域毎に、実習評価をフィードバックしている。これは、より良い指導体制や協働体制に繋がっているばかりか、臨地実習という現場での授業を、より良いものにしているといえる。今後は関連施設への実習評価をフィードバックをし、より良い臨地実習に繋げるように努める。　新型コロナウィルスのため関連施設での実習が不可能だったため、今年度の課題は未だ整備できていない。この課題は引き続き次年度の課題と持ち越し**				
		1-2	臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。	○	○							
		2-1	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。		○ ○ ○							
		2-2	臨地実習における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。		○ ○ ○							
		2-3	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	○	○							
		3-1	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重す	○			実習要項、各領域の手引き 実習指導者会議ファイル					

		るための考え方を明示している。	○			実習指導者会議の開催					
		3-2 対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	○								
		4-1 臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。		○ ○ ○		実習要項	平成29年度よりヒヤリ・ハット報告書の書類を改善した。タイムリー且つ効果的に報告書をあげ、振り返りができ教育効果に繋げるために書類のフォーマットをチェック方式に改善した。このことから、データ化しやすく分析に繋げられる。 臨地実習における対象の権利、プライバシーについての倫理的配慮、また、実習中の事故時の(インシデント、アクシデント発生時の対応)については実習要項に記載している。しかし、学生の事故についての把握はしているものの、現状では分析には至っていない。 よって、これを今後の課題とする。 **昨年度同様、学生の事故についての把握はしているものの、現状では分析には至っていない。しかし、学生がインシデントレポートを書くことへの観念に変化が観られてきていることで、着実により良い看護教育や看護に繋がっている。 次年度以降は貯蓄されたインシデントレポートを基に分析していけるよう努める。** **昨年度同様、学生の事故についての把握はしているものの、現状では分析には至っていない。これを次年度の課題とし克服できるよう努める。**				
		4-2 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	○			実習要項					

自己点検・自己評価および第三者評価表　　学校名：平成学園　東群馬看護専門学校　　学校関係者評価：

評価項目 カテゴリー	下位項目	評価内容	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	資料名	令和2年(2020)度 自己点検・自己評価の概要と今後の課題	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	令和2年(2020)度 第三者評価の概要
Ⅳ 教授・学習・評価過程	1 授業内容と教育過程との一貫性，看護学としての妥当性，授業内容間の関連と発展	1 授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	○			教育計画や便覧、履修要項(シラバス)	**専任教員はカリキュラム再編成をしていく中で、授業内容間の重複や整合性、発展性等を明確化していく必要性の理解はできている。このことから、授業内容間の関連については互いに確認し合い、重複、整合性を図っている。今後の課題は新カリキュラム再編時に、授業内容間の関連のみでなく、発展性を含めたものにしていく。**				
		2-1 授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	○								
		2-2 授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。	○								
		3 授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	○								
		4 授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	◎	○							
	2 授業の展開過程	1 授業形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容に応じて選択している。	○			履修要項参照					
		2 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。	◯	○							
		3 授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。	◯		○	起案書等					
		4 学生に対し、効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	◎	○		実習議事録や個々の実習打ち合わせ時の議事録、教員会議議事録	**臨地実習や学内の授業に関して、効果的且つ能率的に指導を行なう為に教員間で協力し合っている。**				
	3 目標達成の評価とフィードバック	1-1 評価計画を立案し、実施している。	◯	○ ◎		授業、実習評価アンケート 看護教育における授業展開を参考	自己点検自己評価の概要については昨年同様。　これについて、授業計画～学生評価は学内のみの教員実施である。さらに、この学生評価の結果から次年度の授業改善計画の繋がりが明確化されていない。この繋がりについては今まで各教員に一任している。今後はこの学生評価一授業改善計画の繋がりを明らかにするためにも、学生評価の結果を学生に公表し、学生の授業の質の担保と学生の学習課題を見出す機会としていくことが必要である。				
		1-2 評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。	◯	◯ ◎		授業計画～評価ファイル	授業評価の結果は整理し資料として保管している。また、授業評価の結果に基づき具体的に改善している点では、担当教員に一任し、次年度の授業計画に反映している。また、提出物や試験結果の返却は学生自身が効果的な学習に繋げられるよう適切な時期に返却できるように努めている。 **昨年度と同様な状況。今後は課題が明確化されているので取り組めるよう努める。** **臨地実習の評価はクール毎の実習終了時に実施している。1クール毎に学生からの評価を受けていることから、改善点を抽出し、対策を立てブラッシュアップした状態で臨んでいる。また、講義に関しても主体的に毎回授業終了時にアンケートを取っていることから、授業改善に努めているといえる。さらに最終講義時に授業評価の実施をしていることから、改善点の抽出及び対策は次の講義に繋げられている。今後の課題はこのような状況を継続し、さらに授業改善に努めていく。ただし、新型コロナウィルスの関係で対面とリモートのパターンが生じることにより、横的な課題は多様化している。リモートにおいては横のキープを主事的に置いたが、普遍的に生じるケースとして取り組み続ける。**				
		2-1 学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	○								
		2-2 教育目標の達成状況を多面的に把握している	◯	○		便覧やシラバス実習手引き					

			教育目標の達成状況を多面的に見届けている。	○	○		ど						
			3-1 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	○			便覧やシラバス実習手引き						
			3-2 単位認定の評価には公平性が保たれている。	○									
	4	学習への動機づけと支援	1-1 シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。		○ ○ ○		内部教員一覧表	国家試験学習支援内容と国家試験合格率の整合性を比較し分析していく。さらにこの評価を基に次年度の国家試験対策のプログラム立案に活かしていく。 教育目標からシラバスへの繋ぎの提示、卒業生の目標到達度からも現状としては、養成所として一貫性があるとは言い切れない。 また、学習の支援体制は担当教員により、学習目標の到達状況に合わせて、個人的指導や学習環境を整えている。 今後は客観的評価と、学生の学習の動機づけとするためにもGPAの導入を試みる。 **シラバスの提示においては養成所全体として一貫性は保持できている。しかし、学習への指導方法に関しては昨年度同様に、個人に任せている。このことから、養成所全体としての一貫性があるとは言い難い。また、シラバスの提示や学習への指導が学生の動機付けと言えない。今後は学習への動機づけとするためにGPAの導入を実施を試みる。 今年度の目標管理導入などから教授活動に課題があることが分かった。GPAと合わせてこの課題の改善は学生の学習動機や支援に繋がるといえる。よって、これを次年度の課題とする。**				
			1-2 シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。		○ ○ ○		便覧やシラバス実習手引き						

自己点検・自己評価および第三者評価表　　学校名：東群馬看護専門学校（自校評価）　　学校関係者評価：

評価項目 カテゴリー	下位項目	評価内容	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	資料名	令和2年(2020)度 自己点検・自己評価の概要と今後の課題	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	令和2年(2020)度 第三者評価の概要
V 経営・管理過程	1 設置者の意思・指針	1-1 養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	○			教育計画 キャンパスガイドなど	設立の意図や学校全体の方針が明文化されていない。さらに年度の方針やその評価も同様にない。今後は設立の意図や学校全体、年度の方針を明文化する。さらにこれに対する評価の実施と書類整備に努める。 **教育課程編成委員会の主たる構成メンバーは管理者である。このことから教育課程経営に対し、考えはあるものの、これをこの会の中で明文化できていない現状である。今後の課題は継続的に検討し、明文化。また、これを実践していく。　今年度は目標管理を導入実施したことで、当校の課題が明確化された。具体的には教授活動（学習方略・タキソノミー・評価）である。これを把握することは教育課程経営に繋げられる。**				
		1-2 養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	○	○ ○		教育計画					
		1-3 養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	○								
		1-4 養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	○								
		1-5 明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。	○								
		1-6 教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	○								
	2 組織体制	1-1 養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	○			規定集	養成所の組織体制と意思決定システムを明確に規定されている文書や職務の分掌の規定もない。教員側のみ職務分掌はあるものの、不足点が多く修正が必要である。 また、組織の職員の任用の考え方や職員選考、資格審査、任免、昇格などに関する規定も明文化されておらず。 今後は、今回の課題を明文化し整備していく。 また、職員の倫理規定はないが賞罰規定がある。 今後、倫理規定が整備されるまで、既存の賞罰規定を代用し倫理規定整備に努める。 **今年度は養成所の組織体制と意思決定システムを明確にするための文書を試みた。また、職員全体の倫理規定、さらに専任教員の倫理規定も整備した。今後はこれを実践する中で不足・改善点を見出し、追加・修正していく。**				
		1-2 意思決定システムが明確になっている。	○			**職務分掌の規定 職員全体の倫理規定 専任教員の倫理規定**					
		1-3 意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	○								
		1-4 意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	○								
		2-1 組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	○								
		2-2 教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	◎	○							
	3 財政基盤	1-1 財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	○			理事会資料	毎年度5月に開かれる理事会にて、財政基盤の根拠に対する根拠やこれに対する教職員の理解は得られている。しかし、経済基盤に関する詳細については、職員会議で周知されるのみ。データ化されたものを保存しているわけではない。今後はこれを議事録などに保存する。				
		1-2 財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。	○								
		2-1 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。	○								
		2-2 教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。	○			資料なし					
	4 施設設備の整備	1-1 学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	○	◎	○	資料有り	空調関係やゼミ室増設に関しても伺い（起案）をかけている。その伺いの中で管理者の考えを示している。**今年度は起案から工事が入り、環境整備完成の中途段階である。**				
		1-2 管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。	○	◎	○	資料無し	管理者の考えを基に整備計画に盛り込み修繕や交換実施等は出来ている。しかし、書類としては明確にされていない。今後は考え方やその考え方を基に整備計画を立てる書類作成に努める。**今年度は新形コロナウィルス感染症に伴い学生の安全性をメインに計画・整備している。**				
		2-1 看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	○	◎	○	資料無し	備品などの台帳を作成し、整備計画に基づいて修繕や交換等の実施は出来ておらず。　学生の学べる環境づくりを考え、順次施設設備の整備を実施している。しかし、機械器具などの備品台帳等の管理が不十分出るため、今後は見直し修正をはかり管理できるよう整備する。 **今年度は備品などの台帳を作成し、整備計画に基づいて修繕や交換等の実施している。また、施設設備については長期計画を立て、継続的に整備している。さらに今年度は近隣の看護学校の閉校に伴い、モデル人形や機械器具、演習物品を譲り受けた。こういったことからも施設整備等の改善に繋がっているといえる。昨年度近隣の看護学校から譲渡されたモデル人形や機械器具、演習物品の備品台帳管理が現状では整備されていない。従ってこれを課題とし整備していく。**				
		2-2 医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	○	◎	○	資料有り					
		3-1 養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生の施設設備の整備を検討している。		○ ○	○	資料無し					
		3-2 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	○	◎	○	資料無し					
		1-1 学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	○			資料有り	学修継続への支援体制、学習困難への支援、社会的活動への支援体制、卒業後の進路選択の支援体制の資料はある。その他、卒業生が来校し困難に遭遇している状況等については就労・学習意				
		1-2 学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整	○			資料有り					

	5 学生生活の支援	えている。	○			資料有り	欲を継続できるようにアドバイスをしている。しかし、一切記録等に残してはいない。従って、そのデータ化も実施できておらず。今後は記録に残し保管し実績に繋げていく。					
		1-3 支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	○			資料有り						
	6 養成所に関する情報提供	1-1 教育・学習活動に関する情報提供を関係者（保護者等）に行っている。	○			資料有り	教育活動に関する関係者への提供した情報に関する書類などは、後援会や保護者会などで、当校の情報やデータは提供している。　　また、HPや高校へ出向きアドミッションポリシーに基づき実践している。					
		1-2 関係者（保護者等）への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。	○			資料有り						
		2-1 看護師を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。	○			資料有り						
		2-2 広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。	○			資料有り						
	7 養成所の運営計画と将来構想	1-1 養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	○			理事会資料など	看護師を養成していくというミッションがある中、少子高齢化に伴う中将来構想について運営委員会、理事会等で話し合われ試行錯誤している。また、これに沿って、年間計画は立案し理事会にて起案成立している。しかし、短、中、長期計画を打ち立ててはいない。今後は運営の改善を図るためにも計画的に考え書類整備に努める。					
		2-2 その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。	○									
	8 自己点検・自己評価体制	1-1 自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	○	○ ○		資料なし	今後は全員が何らかの形で自己評価に関われるように組織体制を作る。当校の例規集に則って個々が役割を担う。目標をあげ、評価する。これを明文化する。 **2016年より自己点検自己評価の実施をしている。しかし、教職員全体での自己評価には未だ至っておらず、現状では主たる構成メンバーでの評価となっている。昨年度も課題提示したが、今年度も「全員が何らかの形で自己評価に関われるように組織体制を作る。当校の例規集に則って個々が役割を担っていくこととする。また、（目標をあげ、評価する。）これを明文化する。** 今年度は目標管理を導入し、次年度は人事考課を実践していきたいと考えている。こういったことは自己点検自己評価に繋がるため継続し実践していく。また、昨年度の課題は実習・授業共に自己評価を行っていることから整備の中途段階といえる。今後さらに例規、その他コンプライアンスに基づき常に改善できる機能を持つよう心掛ける					
		1-2 実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	○	○ ○								
		2-1 自己点検・自己評価体制を整え、運用している。		○ ○ ○								
		2-2 自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。	○	○ ○								
		2-3 自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。		○ ○ ○								

自己点検・自己評価および第三者評価表　学校名：：東群馬看護専門学校（自校評価）　　学校関係者評価：

評価項目				3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	資料名	令和2年(2020)度 自己点検・自己評価の概要と今後の課題	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	令和2年(2020)度 第三者評価の概要
カテゴリー	下位項目		評価内容									
Ⅵ入学			1 教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	○			資料有り	選抜方法別の成績の推移に関しては統計的なものがとれている状況ではない。今後は統計的なものは可視化し分析に繋げる。また、学生募集に関するガイダンスや活動状況は記録できている。				
			2 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。	○			資料有り					

自己点検・自己評価および第三者評価表　学校名：東群馬看護専門学校（自校評価）　　学校関係者評価：

評価項目 カテゴリー	下位項目	評価内容	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	資料名	令和2年(2020)度 自己点検・自己評価の概要と今後の課題	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	令和2年(2020)度 第三者評価の概要
Ⅶ卒業・就業・進学		1 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	○			資料有り	卒業時の学生の進学状況（助産師養成所や大学編入） 卒業生の進学・就学状況、国家試験合格状況に関する資料は継続して保管している。				
		2-1 卒業時の到達状況を分析している。	○								
		2-2 卒業生の就業・進学状況を分析している。	○								
		2-3 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。		○ ◯ ○		資料有り	卒業時の看護実践能力を評価し分析まで至っていない。 設置主体の奨学施設とは実習指導者会議やその他の会議、打ち合わせ等から、卒業生の状況に関する情報提供はある。しかし、改めて活動状況に関して就業先に調査依頼し、結果を分析した事実はない。実態把握できていない。従って文書なし。設置主体の奨学施設が就職先となり、80%以上の卒業生が就業していることから、今後は、密に連携を図り、実態把握に努め就業状況に関する調査を依頼するための体制づくりを整備していく。 **昨年度同様、卒業時の看護実践能力を評価し分析まで至っていない。設置主体の奨学施設とは実習指導者会議やその他の会議、打ち合わせ等から、卒業生の状況に関する情報提供はある。しかし、改めて活動状況に関して就業先に調査依頼し、結果を分析した事実はない。実態把握できていない。今後は、密に連携を図り、実態把握に努め就業状況に関する調査を依頼するための体制づくりを整備していく。** **今年度の課題は全く取り組めていない。よって今年度の課題を引き続き来年度に移行し取り組んでいく。**				
		3-1 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。		○ ○ ○							
		3-2 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。		○ ○ ○							
		4-1 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。			○ ○ ○						
		4-2 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。			○ ○ ○						

自己点検・自己評価および第三者評価表　　学校名：　：東群馬看護専門学校（自校評価）　　学校関係者評価：

評価項目 カテゴリー	下位項目	評価内容	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	資料名	令和2年(2020)度 自己点検・自己評価の概要と今後の課題	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	令和2年(2020)度 第三者評価の概要
Ⅷ地域社会／国際交流	1 地域社会	1-1 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。		○○○		資料なし	現状では学校全体としてという地域貢献できていない。しかし、地域の施設などより、ボランティア活動の要請があり、学年ごとに参加している。今後は地域の運動会の救護員などで入るなど、その地域のニーズを把握しできる機会を見つけ、地域のニーズを把握し地域社会との連携をはかっていく。**カリキュラム再編成に伴い、卒業生の特性に大きく関与するキーワード(地域社会)でもあることから、今後は地域の歴史・産業・特産・人口動態などを知り、その地域のニーズを把握し、地域の方々との交流やイベント等のお手伝いができる機会を見つけ、地域社会との連携が必須であることを理解していると、同時に今後の課題が明確化された。今後はこの課題の実践に繋げていく。今年度の課題が全く手付かずな現状であることから、改めて次年度の課題として提示する。**				
		1-2 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。		○○○							
		2-1 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。		○○○							
		2-2 養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。			○○○						
		3-1 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。		○○○							
		3-2 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。		○○○							
	2 国際交流	1 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	○				国際的視野を広げるための考え方は、教育理念から臨床看護総合の科目に繋げている。				
		2 国際視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。			○○○		国際交流としての情報システムはなし。これは今後の課題である。よって今後検討し整備していく。**今年度の課題は全く取り組めていない。よって今年度の課題を引き続き来年度に移行し取り組んでいく。**				
		3 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。			○○○		現在まで、海外からの学生受け入れの経験はなし。よって、英文の卒業書類もなし。今後検討し整備していく。**今年度の課題は全く取り組めていない。よって今年度の課題を引き続き来年度に移行し取り組んでいく。**				
		4 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。		○○	○		海外で活躍している卒業生が、一時帰国し、海外の看護師・医療の状況を情報として提供している。しかし、留学生や海外においての看護職に就く希望者などを受け入れる体制作りはできていない。今後検討し整備していく。**海外で活躍している卒業生が、一時帰国し、海外の看護師・医療の状況を情報提供している。また、海外で看護師としてのスキルを磨くための進学をする卒業生のための書類作成の準備状況は可能である。今年度の課題は全く取り組めていない。よって今年度の課題を引き続き来年度に移行し取り組んでいく。**				

自己点検・自己評価および第三者評価表　学校名：東群馬看護専門学校（自校評価）　　学校関係者評価：

評価項目			3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	資料名	令和2年（2020）度 自己点検・自己評価の概要と今後の課題	3 当てはまる	2 やや当てはまる	1 当てはまらない	令和2年（2020）度 第三者評価の概要
カテゴリー	下位項目	評価内容									
Ⅸ研究		1 教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）している。		○ ◯ ○		資料なし	教員に対する研究支援に関する状況は有効的ではない。各教員の有効な時間の費やし方には容認し、環境的にも保障は可能である。しかし、実質、業務の中での研究時間を確保することは難しい現状にある。 **今年度も昨年度同様に、環境的には研究活動の保障は一部可能である。しかし、実質、業務の中での研究時間を確保することは難しい現状である。今後は教員一人当たりの授業や実習等の負担や業務分担の見直し・整備が必要である。これをすることでより良い看護教育の一助となる研究活動時間の捻出を図っていく。今年度は新型コロナウイルスの影響により、必要以上に雑務が多く研究活動の保障はできていない。しかし、遠隔授業・実習の構築や実践から、今後の研究活動に繋がる機会であったといえる。来年度は今年度の経験値を活かし研究活動時間を確保していく。**				
		2 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	○	○ ◯		資料あり	看護教育研究会の役割を担っている者や研修係が管理、保管している。今後も現状を継続しつつ、体制を整備していく。 **今年度も昨年度と同様である。今後は専任教員が研究活動を考えられるような環境づくり（時間・経済・もの）の体制を整備していく。今年度は新学校長が就任された。新学校長は大学院での教授であったことから、研究活動についてはスペシャリストである。よって「研究検討・研究助言・研究体制」についての準備状況は整備されている。**				
		3 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。		○	○ ◯	資料なし	現状況では全く活動していない。今後検討し整備する。　**昨年度と同状況であるものの、専任教員は研究に価値を置いている。今後はファーストステップとして教員間での研究活動に繋げられるように支援体制を整備する。昨年度と同状況であり、専任教員は研究に関心を抱いている。よって今後はファーストステップとして教員間での研究活動に繋げられるように支援体制を整備する。**				